

平成24年度 授業改善推進プラン 【図画工作】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

どの学年も図工を楽しみ意欲的に取り組んでいる。中には技術的なことで表現活動を苦手を感じる児童もいる。

<発想や構想の能力>

自分なりの発想を生かした作品を描いたり作ったりする時に、発想や構想の段階でイメージが湧かず、表現活動が進まない児童もいる。

<創造的な技能>

表現力の蓄積が少ないためなのか、豊かな表現活動ができない児童もいる。

<鑑賞の能力>

親しみをもって造形作品に触れ、友達の作品や活動の良いところや楽しさに気付くことができる児童がほとんどであるが、そうでない児童もわずかに見られる。

2 授業改善の方策 一体の感覚と言語活動を大切にしながら

・ <関心・意欲・態度>

作品が完成した時の達成感、充実感が味わえる題材の工夫や表現の喜びを味わわせる授業を展開する。**児童が意欲的に興味をもち楽しく造形活動ができるように、教師は題材の選択に力をそそぐ。そして、身体で体感（指を使う感覚や触感等）できるような授業を開拓・推進する。**

・ <発想や構想の能力>

作品を描いたり作ったりする時の想像力を豊かにするために、**各々の児童の実体験や知識・言語活動を生かし空想・想像力を拡大していく。**

・ <創造的な技能>

創造的な技能は各々の豊かな実体験・知識の中から児童が選択し**表現する時に、体の感覚や言語活動を通して生じるものと考え、なるべく多くの、体の感覚を使う題材を教師が見つかる。**

・ <鑑賞の能力>

日常的にも自他の作品を鑑賞する機会を通し、色・形・直感的なイメージ等を活用したコミュニケーションを大切にする。

3 活用につながる指導

- ・ 完成させることができなかった児童には放課後を中心に時間を与えて対応しアドバイスをする。
- ・ 発展的学習としてポスター等のコンクールへの参加を呼びかける。早く終わったら活動が深められるように発展的な教材を用意し、時間を有効に活用できるようにする。